

夏から秋へ

10月にしては、日中はかなり暑さを感じる。でも朝夕は、秋を思わせる風が吹く。なんだか、猛暑の夏を振り返りたくなかった。

この夏も、平日は毎日のように大阪市立大の学術情報総合センター図書館に通った。猛暑のなか、35分も地下鉄に乗って通うのは、生活（研究）のリズムを保つためだ。長年にわたり、大学の研究室で朝早くから仕事をしてきた。退職して5年半も経つのに、その習慣からまだ抜け出せない。健康のためでもある。自宅にいと、あまり歩かないが、こうして出歩くと往復で8000歩あまり歩くことになる。ある雑誌では1日8000歩が、健康の目安と書かれていた。

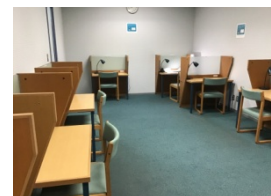
地下鉄御堂筋線「あびこ駅」から、ここまで歩くと汗びっしょり。駅からの道はなんとも暑く味気ないが、センター前の池の前に立ち止まると、すこしは涼しさを感じる。写真は理学部附属植物園提供の「パラグアイオニバス」。オニバスがスイレン目・科であることを初めて知った。



2年前まで通った名古屋大中央図書館前の池にも思い出がある。この池にサギが飛んできたことがある。朝早いので、まわりに人がいなかったで、「サギだ!」と言いながら近づいたが逃げなかった。なにか勘違いしたのだろうか。



センターは10階まであり、図書館などが入っている。屋上庭園もあり、気分転換のため何回か行ったが、あまりの暑さにすぐ退散した。いつも利用するのは地下1階の「サイレントエリア」である。机が9つ並んでいるだけの殺風景な部屋であるが、静かなエリアで落ち着くから愛用している。とくに夏休み中は、ほとんど独占して利用してきた。「個室」感を味わいながら、集中して読書、原稿を書くことができた。試験期間になると、ここが満室になり「苦労」することになるが。



猛暑の夏の思い出が、図書館話になってしまったが、実際こんな生活だったのである。土曜日には研究会やシンポジウムなどに参加し、日曜日午前には、まち歩きに出かけた。研究の「苦しみ」については、またレポートしたい。

規則正しい生活を続けながら、9月には、また歳を一つ重ねた。年齢を感じることも多くなった。長年にわたる腰痛は別にして(なんとか現状維持)、歯と目に衰えを感じている。歯は医者通いが続いてきたが、ついに抜歯することに。ばしっと抜いたものの、その後待っていたのは? 目にも入院・手術など痛い目にあってきたが、別のやっかいな症状に悩まされることに。いろいろあるが、とにかくペースを崩さず前向きに。

(2019年10月4日)